

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472200443
法人名	社会福祉法人鶴寿会
事業所名	グループホーム さわやか
所在地	宮城県柴田郡川崎町大字川内字筑畑8-3
自己評価作成日	平成27年 8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然環境に恵まれた立地条件にあることから、外気浴や散歩をしながら四季折々の花や山菜、栗等収穫し四季の変化を体で感じ取って頂くと共に、利用者様の知恵と力をお借りしながら食卓まで運び喜んで頂いています。 ・レクリエーションの充実を図り、毎日午後のおやつに歌を唄ったり体操などを通して体を動かす機会を取り入れ健康増進を図ると共に、楽しみのある生活の中で皆さんの笑顔と笑い声があふれています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成27年 9月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

川崎町から仙台市へ続く国道457号沿線に、同法人が運営する「釜房みどりの園」や「蔵王グリーンホーム」があり、その敷地内に「グループホームさわやか」がある。町文化祭に入居者作品を出展したり、地域包括職員が「スマイル体操」で毎月来訪するなど地域との連携が良好である。職員は入居者一人ひとりの過ごし方や会話、様子などを「気づきノート」に毎日記録し共有しており、その人にとって最も良いケアは何かを考えて実践している。入居時にしていたオムツを外せた例が複数あり、チームケアの成果がうかがえる。職員の「まず自分が笑顔で」や「自分だったら」の思いが、入居者の笑顔と意欲を引き出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所: グループホームさわやか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに職員全員で考えた理念を掲示し、朝のミーティング前に声を出して唱和することで共有を図り実践に繋げています。	全職員の思いを集約し、「敬意をもって自己決定を支援する」や「持てる力や意欲を引き出す」等、その人に合ったケアの実践をうたっている。職員の明るさが入居者の笑顔を引き出し、心地よい暮らしを支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町主催の行事への参加や、町への買い物または町の温泉を利用するなどして交流をはかっています。また近隣の方を招いて施設の内覧会を実施し話し合いの場を設け、理解を深めて頂きました。地域の方を招いた夏祭りも実施しています。	民家はまばらな環境であるが、地元の方がハーモニカ演奏を聞かせてくれるなどボランティアの来訪がある。内覧会は初めての試みで、ホームの内容を初めて知った住民の感想や相談があり好評であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の普及活動の一環として管理者がキャラバンメイトとして役割を持ちながら活動を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催される運営推進会議において施設内での取り組みや利用者様の様子について報告しています。ご家族様や町の推進員の方からの意見や要望等貴重な情報を提供して頂いています。	同法人の4施設合同の運営推進会議である。メンバーの提案で、住民の理解を得る施策として内覧会を実施した。会議では、各施設の支援状況の報告と質疑が交わされている。特に当ホームへの提言等はなかった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町主催の研修には勤務者以外の職員全員参加し町担当者や、他事業所職員との交流をはかり情報交換の場ともなっています。認知症普及活動のメンバーとも協力関係を築いています。	担当課職員と包括職員は運営推進会議に出席している。「認知症について」など、介護職員を対象に専門家による研修会を行なっている。包括職員が毎月ホームを訪れ、「スマイル体操」をして入居者に喜ばれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関をチャイム対応とし施錠せず開放的にしております。職員間の連携のもと抑圧感のない見守りを行い本人本位の行動を尊重できるよう取り組んでいます。	暴言、被害感、不安感など、認知症が引き起こす周辺症状について理解しており、その人の行動に慌てることなく、時には予測して的確な対応をしている。本人の不安や不満の原因を取り除き、本人の意思を尊重することで穏やかな生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	敬意を持った支援ということを理念に掲げ言葉による虐待やプライバシーの侵害等不適切な扱いに及ばない様、職員会議の場でケアを振り返り、声掛けの仕方等工夫しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加し、職員会議の場にて参加職員からの報告を受け勉強会を行い共通理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際には重要事項説明書やさわやか利用契約書をもとに必ず全ページ読み上げ確認をして頂き、内容を理解・納得して頂くと共に不明な点については質問を受けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会やさわやかでの家族会にてご家族様との話し合いの場を設け意見の交換を行っています。内容については議事録にまとめ、ご家族様・職員に配布し改善すべき所や要望等取り入れて行けるよう運営に反映させています。	行事の後に家族会を行なっている。家族同士が体験を聞いたり、思いを話し合えたことが良かったとの感想があった。要望等はなく、合同制作の協力申し出があった。毎月「さわやか便り」でホームの状況と、手紙で入居者の様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や、月に一度全職員参加による職員会議を行い意見や提案を聞く機会を設け皆さんの意見を吸い上げ反映して行くようにしています。	年2回、職員は自己評価の機会があり、毎月の職員会議と合わせてスキル向上に力を入れている。ケアに関する観察や工夫での成果を発表し、意見を出し合い、次のケアにつなげている。物品購入は本部の判断による。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課を実施しています。資格修得の推奨・職員の勤務年数や得意分野を生かした研修等積極的に参加し、職員が向上心を持って働ける様努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの個性を生かし、勤務年数や力量を踏まえた上で法人内外の研修に積極的に参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し、同業者との交流ネットワーク作りや、勉強会等に積極的に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、入所時にご本人様やご家族様とゆっくりと時間をかけて話し合い、不安な事や心配な事への気持ちを受け止め、安心を確保して頂ける様関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の話し合いにおいてご家族様が困っている事や不安な事、要望等に耳を傾け少しでも解消して行ける様関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント情報収集シートを活用し必要としている支援を見極め、生活歴と合わせてサービスの対応に努めている。前段階でのサービス利用時のケアマネからも情報の提供を頂き継続性のあるサービスに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の考え方を基本とし、出来る事をみいだしながら出来ない部分のさりげないお手伝いに努めています。食事作りや後片付け等も一緒に行い暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事においても連絡を密に取り合い、ご家族様からの確認を取りながら支援に当たっています。月初めに担当職員が前月の近況を書いて報告し、「さわやか便り」にて1ヶ月の生活の様子を見て頂き絆を絶やさない取り組みをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町営のやすらぎの湯での入浴や地域の行事の参加など馴染みの場所への外出を支援し馴染みの人や場所との関係が途切れない様支援に努めています。また知人の面会があった際にもくつろいで話して頂けるような環境作りに努めています。	運動会の鉢巻きやお手玉を作るなど、入居者の得意なことを活かしている。前に居た施設に行って、活動に参加するなど関係継続を支援している。地元で親しんでいた温泉や文化祭で隣人・知人と昔話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を十分に把握し気の合う人同士同じ役割を持って頂いたり、一緒の入浴をして頂いたりと関わり合える機会を多く持てるようにしています。孤立しそうな利用者様には職員が間に入りコミュニケーションを取りやすいように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院での契約終了者においては退院してからの入居先の確保や保証人様が遠方の際には洗濯物や消費物の補充等の支援に努めています。他事業所に移った利用者様にも声をかけ様子を見守っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の気づきノートに日々の会話の中から暮らしの希望や意向等聞き取れたことを漏れなく記入し申し送りの際にその思いを共有できるようにし状況によってケアプランに反映させたり行事に組み入れたりしている。	入居者の「～したい」の言葉で、流しそうめんや手に持って花火を楽しむなど思いの実践をしている。居室に居る時間の変化や顔をそむけるような表情・しぐさなどでも思いを汲みとり、申し送りで職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りにおいてこれまでの生活状況や生活歴・馴染みの暮らし方について伺い継続性を持った支援がしていけるよう努めています。前担当のケアマネからも情報提供をして頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時の1週間は24時間の行動を記録し感情の変化などにも目を向けるようにしている。その他に日々の気づきを個人ごとに記録し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に一度のケアカンファレンスや月に1度の職員会議の場において課題やケアの在り方等話し合いモニタリング・ケアプランにつなげている。ご家族様・ご本人にも説明し要望や意見をいただくようにしています。	山歩きの好きな入居者のプランに「散歩がてらの栗拾い」を入れた。排尿量の多いことへの夜間対応をポータブル使用にした。疾患特有の周辺症状について勉強し、その人に合った対応を盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中や夜間での様子で気付いた事を個別のケース記録に記入し申し送り時に報告し情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所以前に利用していたデイケア等継続して利用したいとの要望があった際にはセンター側との情報交換や外出時の支援を行う等状況に応じて柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内にある国営公園や食堂、町で運営している温泉施設等利用し季節ごとの行事や個別支援に活かし、豊かな暮らしを楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族様にお願いしていますが要望に応じて職員が付き添い(有料)柔軟に対応しています。緊急時においてはご家族様、かかりつけ医と連絡を取り合い指示のもとで行動しています。	毎朝バイタルチェックを行なっている。皮膚炎の処置や排便確認など、法人看護師の協力を得ている。受診に同行する家族には、ホームでの様子を話し、必要に応じてバイタル表を持参してもらう。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師はいない為異変があった場合には同法人の看護師に相談し支持を仰ぎ適切な受診や看護を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に入院した際には症状に至るまでの経緯や既往歴、ADL等の情報を提供しています。細目に面会に行き看護師との関係作りにも努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年に一度終末期に関するアンケートを取り確認を行っています。当施設でできる事出来ない事等も理解して頂き今後の方針を考えて頂いています。重度化の場合においては同法人の特養への利用もできやすいように支援しています。	指針には、「慣れ親しんだホームで、穏やかで安らかな日々を過ごすための看取り介護を実施する」ことを表している。これまでに看取りの経験がある。アンケートの「ターミナルケアにおける確認書」で延命や急な対応について、家族の思いを把握している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が消防署で行っている救命救急の講習を受けられるようにしています。定期的に行っている避難訓練の際にも救命士より救命救急の指導を受け実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特養、軽費老人ホームと併設している為持ち回りで年3回の合同避難訓練を行っており夜間や日中帯、祝日など色々な想定を元に訓練を行い状況に応じた避難が出来るよう訓練しています。通報や応援体制も確立させ協力体制を築いている	3回のうち1回は、ホームが出火場所としての訓練である。夜勤者は毎月、マニュアルにそって行動確認をしている。歩行不安者の避難時間短縮を図り、毛布を使うことや居室の窓からなど試行し、最善策は車椅子だった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を持った支援を心がけ、言葉にいたわりを持ち尊敬・感謝の気持ちを忘れない様にということを理念にもかかげ毎朝唱和しています。年に2度の処遇改善にて自分自身で点数をつけ振り返る機会も設けています。	その人が出来ることはしてもらうことを基本にして、やりたいことをやってもらうようにしている。乗り気でない時の表現を理解したり、気持ちを込めた声の掛け方など、その人を大切にしたケアをしている。会話等が馴れ合いにならないよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が発せられない利用者様にも必ず意向を伺い表情やしぐさから思いをくみ取るようにしています。献立をたてる際にも季節的な事や行事的な事を踏まえながら一緒に考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候によって外に出たり中で過ごしたりと自由に過ごして頂けるような環境作りに努めている。また一人一人の趣味や趣向を把握しそれに沿った過ごし方が出来るよう支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後等鏡を見て整髪して頂けるよう、せかさず見守っています。着替えを選ぶ際にもその日の気候を踏まえうえで好みのものを選んで頂けるよう支援しています。髪飾りにこだわりを持っている利用者様にも忘れず着けて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人一人の好みや力を把握し、できる事を見出しながら食事作りや後片付け等一緒に取り組んで頂いています。利用者様の食べたいものや食べやすさ等にも配慮し食事を楽しんで頂けるよう環境作りに努めています。	食事の進み具合や残食から、嗜好や体調が把握できる。誕生日は赤飯、焼き肉、サンドイッチなどリクエストできる。餅つき・おはぎ等昔ながらの行事食を楽しんでいる。嫌いな物も形を変える調理の工夫で食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給、排尿両チェック表にて一日を通しての水分量を把握し、個人別健康チェック表にて朝の時点での血圧、熱、一日を通しての食事量等記入し一人一人の状態を把握し健康管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯の洗浄やうがい歯磨き舌下ブラシによるブラッシング等利用者様個人に応じた口腔ケアを実施していけるよう支援し、個人健康チェック表にもチェック項目をいれて支援忘れのないように確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分摂取排尿量チェック表において一人一人の排泄パターンを把握し早め早めの声掛けや夜間のポータブル支援等取り入れ排泄の失敗やおむつの使用量を極力減らしているよう努めています。	申し送りノートで「こうすれば失敗しない」など、職員の試行や成功の例を共有してチームケアに活かしている。全介助でオムツだった人のパターンを把握した対応や夜間のポータブル使用でパンツになった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人健康チェック表にて毎日の排便を確認し、状況をみながら水分補給や散歩等で便秘予防の対策を行っています。日々の食事内容にも寒天や食物繊維を物を多く取り入れるよう工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	水曜、日曜日以外は毎日入浴できるようにし、その日の体調や気分をみながら楽しんで入浴して頂けるように個々に添った支援をしています。気の合う人同士一緒に入浴して頂いたり熱めぬるめの対応など工夫しています。	浴室では「背中流してもらえて幸せ」との感想や昔の話などが聞ける。入浴を浴る人には「〇〇さんが待ってるよ」と仲良さんの協力をもらうこともある。湯上りに鏡の前で身繕いするゆとりを持つことを大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後には日当たりのよい茶の間での日向ぼっこや昼食後には居室でのお昼寝夕食後は就寝までの時間食堂でテレビを見たりおしゃべりしたりして過ごしやすいような環境作りに努めています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋専用のファイルを作り薬の内容を理解し服薬の支援にあたっています。薬の内容が変わった場合には服薬後の症状の変化にも気を付けて見えています。また個人別健康チェックを行い服薬忘れのないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩をしながらの栗拾いや山菜採り草餅作りやおはぎ作り等季節に応じた行事等で昔を思い起こしながらそれぞれにできることの役割を持ち力を発揮して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事の他に個別の外出支援も行っており担当職員と相談して行先を決め外出なども楽しんで頂いています。また地域の行事にも出向き交流を深めています。	外食のほかに自宅や友人宅、美容院などに行く個別支援もある。吊るし雛、花見、サクランボ狩り、釜房湖、梨狩りなどの恒例外出がある。外出することで食欲のない入居者が、よく食べるようになったり、家族に土産を買うなど生き生きする姿が見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事等で出かけた際には担当職員と一緒に個人の財布を持ち自分で選んだものが買えるような支援を行っています。通常は職員側で個人のお金をお預かりしていますが一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり使えるよう柔軟に対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望により電話をしたり電話を取り次いだりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間と居室の温度差があまりなく、利用者様がどこにいても外の光や季節を感じやすい造りとなっています。照明についても極端に明るすぎず眩しさを感じにくくしており不快や混乱を招かないよう配慮しています。季節ごとの花を飾ったり製作活動で壁面の飾り付けを一緒に行っています。	皆が集う食堂やコタツのある茶の間で、折り紙や貼り絵の制作、あるいはパン食い競争や玉入れのミニ運動会をしたり、ゲートボール・ボーリングなどを楽しんでいる。換気や室温、清潔に気を配り過ごしやすい空間をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間スペースや食堂の畳スペース、ソファ等思い思いの場所で過ごして頂けるよう自由に行き来できる通路の確保がしてあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご家族様ご本人と話し合いながら今まで使い慣れた馴染みの物を置いて頂くことで居心地良く継続性のある生活を送って頂けるようふうしています。	居室では食後の口腔ケアや昼寝をしており、皆の居る食堂で過ごしていることが多い。互いの居室を訪問し合う姿も見られる。夜間巡回のほかに、物音等にすぐ対応できる見守りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	窓はすべて二重サッシになっていますが、利用者様でも開閉しやすく、役割として全体の戸締りをお願いしています。居室内はカーテンではなく障子になっており朝夕の日の光を感じやすくなっています。		